

再生医療 細胞製造設計工キスパート育成講座

トレーニングコース

初級編

開催日

2026年3月11日(水), 12日(木)

開催場所

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7-11
アース環境サービス株式会社 彩都総合研究所

環境維持・管理の専門知識を理解した
施設運営に関わる人材の育成を目指す

実際に教育訓練用 CPC に入っての
演習・実技を含めた 2 日間の講座

受講料 60,000 円 (税込)

定員

最大16名です。お早めにお申し込みください。
定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

初級編 の対象と目標

対象 細胞製造に関わる初心者、サプライヤー

目標 実務作業をするまでの基礎知識を習得する

初級編では、基礎知識を重視した環境維持・管理の体系的な習得を目指します。



ガウンニング研修



環境測定機器操作演習



気流・サニテーション演習

お申込みはWEBから！

MEI 再生医療

検索

<https://mei.osaka-u.ac.jp/rme>



受付締切
2026年
2月18日 水

細胞製造設計工キスパート講座のトレーニングコースは2022年にカリキュラムの見直しを行い、これまでのトレーニングコースをベースに、より体系的に基礎の理解を目指す初級編と、管理者に必要なマネジメント設計の理解を目指す上級編の2コースに再編成しました。

コース概要 ~初級編~

内容が変更になる場合があります。

座学

医薬品製造での衛生管理業務、衛生管理者の業務（目標・達成）、構造設備・ゾーニングの基礎などを学び、細胞加工製品製造に関わる規制文書の内容を理解できるようになることを目指します。



演習・実技

作業時・非作業時の衛生管理の違いを理解し、ガウニング講習やクリーンルーム実習を通して業務（清掃、消毒、機器点検、環境評価試験）、作業（初期化、環境モニタリング、清浄化、資材導入）の基礎を理解し実施できるようになることを目指します。



実際に細胞調製室やGrade管理されたクリーンルームに入って実習します

施設説明

アース環境サービス株式会社 彩都 CPC パンフレットより

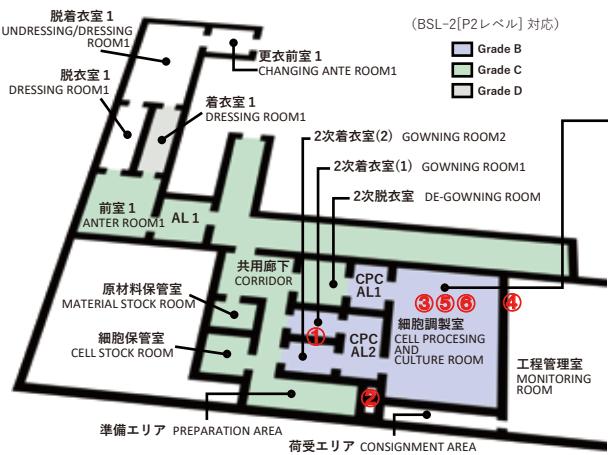


充実した教育コンテンツと設備を兼ね備えた、本格的な衛生管理訓練施設

教育訓練用細胞培養加工施設 (Cell Processing Center for Training)

彩都総合研究所 4F ライフサイエンスエリアとは

ライフサイエンスエリアにはCPCのほかにも、実際の製造環境を再現することができるGrade B、C相当の医薬品製造模擬施設などがあり、より実践的な研修や除染試験、実証実験・再現性検証データの取得などが可能です。



Grade B (2次着衣室・バスボックス・細胞調製室)

入退出の手順／資器材の搬出入		細胞培養の手技	
① リモートレクチャ対応 無菌更衣室	② バスボックス	③ 電子線滅菌 バスボックス	④ バイオセイフティーキャビネット
グレード A の安全キャビネットには、国内では現在京都大学と当施設のみが設置している最新の電子線滅菌バスボックスを設置。		培養技術者のトレーニング、熟練者の技術の共有、手順の検証等が、対面から可能な、特別仕様のバイオセイフティーキャビネットを設置。	
⑤ 無菌操作等区域の浮遊菌管理		⑥ リアルタイム環境監視システム (微生物迅速測定法)	温湿度・換気回数・気流は変更可能
		実際の製造環境などに近い条件を再現可能。 温湿度 温度16~30°C 湿度45~60%	実際の製造環境などに近い条件を再現可能。 温湿度 温度16~30°C 湿度45~60%
⑦ 無菌操作環境を乱さないことを重視したエアサンプラーーシステムを導入。		気流	メンテナンス
		壁面と天井に、切替可能なリターンダクト方式を採用 換気回数 30回、40回、50回	除染試験が可能 二酸化塩素ガス、過酢酸、過酸化水素など各種。 ESCO Willmaster FIDGTWORKS, mobby
UVフロアコート		UVフロアコート	
		クリーンルームの床は、セラミックが容易な、耐薬性と耐久性に優れ、光硬化性の樹脂コートを導入。	

お問い合わせ

〒555-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
大阪大学国際医工情報センター MEIプロフェッショナルコース事務局
Mail: mei-pro@mei.osaka-u.ac.jp
TEL: 06-6879-3384 (平日 9:00-12:00, 13:00-17:00)



大阪大学国際医工情報センター

共催 :

大阪大学大学院工学研究科
細胞製造コトづくり拠点

フェイスブック
もご覧ください



明口へ 人も 環境も
アース環境サービス株式会社

後援 : 日本再生医療学会、日本PDA製薬学会、
バイオコミュニティ関西